

## 地域子育て支援拠点研修事業＜東北開催＞

### ＜開催概要＞

- 開催日 平成24年1月29日(日) 10:00～16:30
- 会場 仙台市市民活動サポートセンター
- 主催 財団法人こども未来財団／NPO法人子育てひろば全国連絡協議会
- 後援 厚生労働省／(社福)全国社会福祉協議会／宮城県／仙台市
- 協力 NPO法人せんだいファミリーサポート・ネットワーク／  
仙台市子育てふれあいプラザのびすく仙台・泉中央・長町南
- 参加者数 137名（男性6名、女性131名）  
(行政45名、NPO・任意団体55名、他団体・企業22名、その他15名)

### ＜プログラム＞

#### ■主催者挨拶■

財団法人こども未来財団常務理事  
安藤哲男さん



安藤哲男さん

#### ■プログラム1 基調報告■

##### 「地域子育て支援拠点事業の概要と展望」

講師：黒田秀郎さん（厚生労働省雇用均等・児童家庭局総務課 少子化対策企画室 室長）

子育ての現状からみた支援拠点事業の位置づけと重要性について、報告と解説をいただきました。

子ども・子育て新システムの内容やコンセプト、財源などについて、統計データを交えながら分かりやすく説明いただきました。「手当に関する法律の細かいところを束ねていき、子育て支援のベースが分かるようにしていくことが重要である」とのお話でした。

さらに、「子育てする親の孤立化を防ぐためには、身近なところからの情報が不可欠。ひろばは、子育て支援の拠点として今後ますます重要な役割を担っていくでしょう」と、支援者へ期待を寄せられました。



黒田秀郎さん

## ■プログラム2 基調講演■

### 「乳幼児子育て家庭に関わる支援者のために」

講師：渡辺久子さん（慶應義塾大学医学部小児科 専任講師）



渡辺久子さん

震災後、福島県郡山市でのボランティア活動を通して感じたことは、「子どもの心の中に恐怖と不安を残したくない。それが私たち支援者の仕事だ」という思いだったそうです。子どもは心の中に「大丈夫、できる」という思いを持てれば、恐怖におびえる自分の存在に打ち勝つことができる。大人の私たちにできることは、「大丈夫」と言って強く抱きしめること。日本の祭り、お能、太鼓のように腹の底から声を出すことには、エネルギーを放出する集団療法のような癒しがあり、心理学や精神医学にも日本の語りの文化のように風土や民族にあったものが必要だと語られました。

そして、3歳未満の子どもたちは、安定し安心できる環境におかれていなければならない。特に震災後の今のような時期は、母親の羊水の中にいるような体験や甘える時間を与えることが大事であり、支援者が伸びやかに、心を豊かに、のんびりと受け止めることで、子どもは癒されていく。母の胎内は幸せな『命の世界』。人は羊水の中のように温かで安心できる場から、時期が来ると子宮壁に押されて誕生し、様々な困難に立ち向かっていくことになる。トラウマの克服には、本音で負の甘えが出てきたとき子どもたちを抱え、受け止める、今まで愛された経験を子どもに思い出させることが一番の治療法であると話されました。

また、神戸の震災を経験された精神科医、中井久夫先生の3月15日の新聞記事にあったように現地の声に耳を傾けて、温かくゆっくりと休める場所を準備して、被災者へ敬意を持ち自尊心を尊重すること、そして被災者の危機を忘れずに継続的な支援をしていくことが必要だと締めくくられました。

\*\*\*\*\*

震災直後から郡山市に入り、子どものための活動を続けてこられた経験をふまえた、心に響くお話でした。その他、郡山でのボランティアでの支援活動、常設遊び場 PEP Kids Koriyamaの話、年齢ごとのトラウマの受け止め方、トラウマと喪失の関わりなど、多岐にわたるお話がありました。参加者からは「大変いいお話だった」「もっと聞きたかった」との声が多く聞かれました。



## ■プログラム3 分科会■

### ◆第1分科会◆

#### ◇「親子の心のケアと支援者自身の心のケアについて」◇

〔講師〕 杉山恵理子さん（明治学院大学心理学部 教授）

〔事例報告〕・小磯厚子さん（NPO法人しらかわ市民活動支援会 おひさまひろば 副代表）

・野口比呂美さん（NPO法人やまがた育児サークルランド 代表）

（NPO法人子育てひろば全国連絡協議会 副理事長）

第1分科会は、椅子を丸く配置し、参加者の顔がお互いに見える状態で、杉山先生の優しい語りかけから始まりました。まず、災害とメンタルヘルスについて、「大災害に対する人間の5段階反応」などの説明があり、災害時の母子への支援、支援者自身の心のケアなどについてのミニ講義をしていただきました。東日本大震災から10ヶ月半が経ち、災害後の子育て支援は「こころのケア」という観点からどのような機能を果たしたかをお話しいただきましたが、多くの参加者が、支援者であると同時に被災者でもあることから、大変心に染みることばかりでした。「今なお苦しんでいる人たちに、私たちはどのようなことができるだろうか」と考え、「相互に助け合い、できることを支援しよう」と改めて誓う機会となりました。

後半は、事例報告も伺いながら、震災時の自分の体験をひとりひとり話してもらい、発表している人も聞いている人も涙を流しながら時間が過ぎていきました。杉山先生からの「今日は泣けてよかったね」「さあ！語れるだけ語ろう」という言葉に、皆さん、心の中にしまっておいたものを吐き出せたようでした。



小磯厚子さん（事例報告）

### ◆第2分科会◆

#### ◇「地域子育て支援拠点の機能を改めて考え、これからの実践に活かす」◇

〔講師〕 渡辺顕一郎さん（日本福祉大学子ども発達学部 教授）

〔事例報告〕・高橋有香里さん（東松島市矢本子育て支援センター 指導員）

・伊藤仟佐子さん（仙台市子育てふれあいプラザのびすく仙台 館長）

#### ●事例報告：伊藤仟佐子さん（仙台市子育てふれあいプラザ「のびすく仙台」）

震災発生時のひろばの様子やその後の対応について。

「わずか3日後、仙台市の公共施設としてもっとも早く再開したのは、『親子に日常を取り戻すことが一番の安心につながる』との思いから。全国から支援を受ける一方で、県内の支援センターなどの支援を行い、各方面とのつながりを深めることができました。また、震災の体験のアンケートをまとめ、専門家へも取材して、子育て家庭向けの地震防災冊子も発行しました。」

●事例報告：高橋有香里さん（東松島市「矢本子育て支援センター」）

人口4万5千人のうち千名が犠牲になる混乱の中で行ってきた活動について。

「5月に通常業務を再開し、お母さん方の心のケアや子どもたちが思いっきり遊べる場の提供を行ってきました。震災後の経験を通じてスタッフ間の信頼が深まり、他の機関やNPOとの関係ができたことを、今後の復興につなげていきたい。」



高橋有香里さん



渡辺顕一郎さん

●ワークショップ：司会 渡辺顕一郎さん

それぞれの拠点で起きている問題について考えるワークショップ。

渡辺さん「震災後に起きてきた問題は、実は以前からあった問題が、大きく多くなって現れてきたものだといえる。もう一度基本に立ち返って支援することが大切です。震災があったからといって特別なことはできない。今まさに、普段どんなことをしてきたかが問われている。これからどのように乗り越えていくかによって、将来的にも様々な事態に対応できるようになっていきます」。最後に、「ひろばは悲しみを表現できる場、ネットワークを作る場としての重要な役割がある」と締めくくりました。





### ◆第3分科会◆

#### ◇「復興への未来を地域と行政でともに考える」◇

〔コーディネーター〕奥山千鶴子さん（NPO法人子育てひろば全国連絡協議会 理事長）

〔事例報告〕・岡崎薫さん（宮古市教育委員会学校教育課 こども発達支援センター 主査）

・伊藤昌子さん（おやこの広場きらりんきっず 代表）

〔コメンテーター〕黒田秀郎さん

（厚生労働省雇用均等・児童家庭局総務課 少子化対策企画室 室長）



伊藤昌子さん

#### ●事例報告：伊藤昌子さん（おやこの広場きらりんきっず）

震災による被害と、その後の再開に至るまでの経緯。

「将来、陸前高田を支えていく子どもたちがのびのび遊び、成長してほしい。そして、ここで子育てしたいと思えるような地域を作っていきたい。そんな手助けができるように日々活動しています。」



岡崎薫さん

#### ●事例報告：岡崎薫さん（宮古市）

岩手県宮古市の子育て支援、震災による被害の状況についての報告。大きな被害を受ける中で、行政にできたこととできなかったこと、復興に向けて思うこと。

「安心感の中で、絆を育めるような取り組みを、想像し、創造していきましょう。」

#### ●ワークショップ（グループワーク）

事例報告を聞いて意見を出し合いました。ポイントは、「震災から学ぶ地域子育て支援拠点の役割」「未来に向けて行政との連携が必要なこと」「被災地から学ぶ、備えとして平常時から地域子育て支援拠点が用意しておくべきこと」。4グループから発表されたキーワードは「つなぐ！！」「今必要な支援を考える」「安心・安全」「安心・安全なこころのつながり」でした。

登壇者からは下記のようにコメントがありました。

「地域で子育てを支えていきたいという思いを忘れずに、これからも活動を続けていきたい」（伊藤さん）



奥山千鶴子さん

「行政そして親としての立場から考えて、ゆるやかなネットワークこそ震災に強いのではないか。知っている人同士でつながっていくことの大切さを感じた」（岡崎さん）

「行政には得意な部分(数値で測れるもの等)と、不得意とする部分があるため、行政と連携する際にはそのポイントを押さえていただけるとよいと思う」（黒田さん）

最後に奥山さんから、「子育て支援拠点と行政がともに復興へ向けて考えていくことが大切」とのまとめがありました。



黒田秀郎さん

#### ■プログラム4 全体会(分科会総括・ディスカッション)■

〔コーディネーター〕野口比呂美さん（NPO法人やまがた育児サークルランド 代表）  
（NPO法人子育てひろば全国連絡協議会 副理事長）

第1分科会：小磯厚子さん

（NPO法人しらかわ市民活動支援会 おひさまひろば 副代表）

第2分科会：伊藤仟佐子さん（仙台市子育てふれあいプラザのびすく仙台 館長）

第3分科会：奥山千鶴子さん（NPO法人子育てひろば全国連絡協議会 理事長）



野口比呂美さん

各分科会の熱気冷めやらぬ雰囲気の中での全体会。それぞれの分科会からの報告があり、それらを受けて今回の成果を次のようにまとめました。

- ・今日の機会を、助け合っていく「ゆるやかなネットワーク」作りのきっかけとしたい。
- ・長期的な支援が必要になっていく中で、親子のさまざまな事情を理解し、認めていくことの大切さを再認識する。
- ・東北でひろばを実践する者として、「その人のために」ではなく、「共に歩み」、過ごしやすい空間を作っていくことを確認する。

最後に、「震災の被害を受けた今、ひろばの役割や拠点の果たすべき役割を再確認し、ネットワークを広げ助け合いながら担っていきましょう」と締めくくられました。



小磯厚子さん



伊藤仟佐子さん



奥山千鶴子さん